

# はいらいん若林

みんなでここさ

入らいん!

## 若林区まちづくり協議会会報 2018.3.1 Vol. 21



▲地下鉄東西線六丁の目駅周辺

青田が広がる田園地帯の六丁の目がその姿を大きく変えたのは、昭和30年代後半から、西側に二つの工業団地が誕生したことと、近くに幹線道路ができたことに因ると思われまます。まず、仙台工業団地の各社が昭和39年に営業を開始、その少し後に、仙台印刷工業団地が始動しました。同じ頃の昭和41年3月に国道四号線バイパスが六丁の目周辺で開通し、それに対する東西の幹線道路として、通称「産業道路」が昭和50年10月から段階的に開通していきました。これらの道路の建設に伴い、車の往来はもちろん、人の流れが急増し、工場や倉庫、事務所等が瞬く間に林立して、六丁の目は、仙台市東部の産業、物流の拠点となっていたのです。

しかしながら、こうしてにぎわいのある町へと発展していった陰には、六丁の目の住民自らが、新しい町づくりに意欲的に取り組んだ努力があったと、聞き及んでいます。

◆参考文献 『若林の散歩手帖』(仙台地名考)「ふるさと七郷もうひとつの仙台」(引地・志子田 記)

穀倉地帯七郷の一角を担う六丁の目は、昔は、見渡す限りの田んぼが広がり、農業と共に生きてきた地域でした。六丁の目に生まれ育った郷土史家の加藤正敏さんのお話によれば、家屋も当初は五、六軒しかなく、明治の中頃にようやく百軒程が増えて、一つの集落を成したそうです。同時に横のつながりができ、住民の親睦を図る権現講や、七軒一組で相互扶助する契約講が作られ、今も続いているところがあるとのこと、町内の絆が古くからいかに強かったかを物語ります。また、六丁の目の先人たちは、何事にもいち早く取り組んだようです。昭和29年には簡易水道が完成し、町内百世帯に給水しました。さらに、一

### 絆を大切にしたい先人たち

一説に、鎌倉時代中期、この地を訪れた一遍上人が、道端の石に書いたと言われる石碑「六字の銘」の呼び名が、後に訛って「ろくぢょうのめ」の町名になったと伝えられています。かつては水田が一面に広がっていたこの地域が、近年、大きく開けて今や仙台市の産業の要となっています。地下鉄東西線の開業で、ますますの発展が期待される六丁の目の今昔を探ってみました。

若林区探訪 その八

## 地下鉄東西線開業で魅力再発見

### 六丁の目駅界隈



▲太子堂

### さらに発展する六丁の目エリア

地下鉄東西線の開業によって、六丁の目エリアはさらに変化をとげています。中でも、産業道路の南側の住宅開発と、それに伴う複合商業施設の誕生で、新しい人の流れができ、地域全体が一層活気を帯びてきました。

六丁の目駅界隈も同様です。すぐ近くには二つの災害公営住宅が建ち、また、震災後に移転してオープンした店も数件あって、復興の息づかいさえ感じられます。一方、この辺りは歴史が古く、一歩住宅街に入ると、平安、鎌倉時代の遺跡に出会えます。創建がかなり古いと言われる伊在白山神社や、六丁の目の地名の由来とも言われる「六字の銘」の碑がある太子堂がその代表です。このように、新旧が混在して魅力的な駅界隈は、生活の利便性も今後ますます向上し、住民にとってより住みやすい地域となることでしょう。

### 産業・物流の拠点となつて

一般家庭にあまり電話がなかった時代、早くも昭和34年に有線放送を導入し、朝昼晩の一時間程度、役場や農協、学校からのお知らせや地域の情報等を流して、コミュニティの活性化につながりました。

こうして長きに渡って積み重ねられてきた住人同士の絆は、新しい町に様変わりした今も健在のようです。

## 地域の話題

### 若林区のママさん会ががんばってまっす!



#### 育児サークル紹介③

### 昭和59年発足以来 存続の危機を何度も乗り越えて

## 「よーいどん」

活動は

いつ? 毎月第2・第4水曜日

どこで? 南材コミュニティ・センター 2階 (たまに屋外)

なんじ? 10:00~12:00

かいひは? 月500円(入会金なし)

#### メッセージ

0歳～未就園児とママたちのサークルです。ハロウィンやクリスマス、お誕生会をしたり、広瀬川でピクニックや芋煮会をしたり、わいわい楽しく活動しています。

お問い合わせ先▶若林区家庭健康課 TEL.022-282-1111

## マンションの住民から見た町内会活動 ~土樋町内会の今~

私の所属する土樋町内会は、800名を越す会員数で、約9割がマンション等の集合住宅居住者で占められており、現在、14名の幹事と33名の班長で運営しています。

いま、少子高齢化などの社会環境の変化に伴い、人々の生活スタイルや価値観の多様化が進む中で、地域コミュニティの希薄化による様々な課題が生じており、特にマンション等の集合住宅においてはその傾向が顕著であると言われています。

私が居住するマンションでは、管理組合の総会(委任状多数)や行事への参加も少なく、マンションの管理・運営等にかかる重要な課題の話し合いや、居住者の高齢化が進む中、役員への選出にも苦慮しています。一方、町内会への活動については、「隣近所とのかわりは苦手」との意識が強い傾向にあるためか、マンション等の集合住宅居住者の参加率が低い状況にあります。

こういった現状を踏まえ、町内会では、アンケートによる意識調査や広報誌「下町人情舞台 我が町土樋」を通して情報提供や行事案内を行うなど、地域の一体性を重視した取り組みを強め、「地域コミュニティの形成」や「住み良い地域づくり」をめざしています。

私自身も、周辺地域とも繋がる防犯防災活動、お祭り、地域イベントなど、多くの情報が共有できる行事への参加を積極的に呼びかけ、一つ一つの取組の中で、地域一体の思いの共有とつながりを広げていければと考えています。

(清水 記)

### 新町内会紹介(荒井西町内会)

## “融和”と“ふれあい”をめざすまちづくり

蒲町小学校近辺に区画された荒井西地区。以前は見渡す限りの農地でしたが、現在は一変して大住宅地となりました。

平成28年6月1日、荒井西町内会が発足しました。当初は約200世帯でしたが、今では世帯数は倍に増え、子どもの数も26人から101人になりました。町内会長の早坂勝良さんは、「子どもたちの交通安全のためにも登下校のボランティア巡視をしています。整備がまだ行き届かないまでも『安全、安心のまちづくり』『防災に強いまちづくり』を目指して東奔西走しています」と、力強く抱負を語ってくれました。婦人防火クラブ長の末永郁子さんも、「防災に強いまちづくりのために、消防署との連携を図りながら活動を進めています」と、とても意欲的です。

去る8月20日、町内の体育文化部が中心となり、荒井西2号公園を会場にイベントが開かれました。サーカステントを張り、フラダンス、尺八演奏、安来節の踊り等の演芸もあって、町内の多くの方が

楽しみ、笑顔が広がったとのことでした。

この地区には、大規模なショッピングエリアがあり、公園も5ヶ所に設けられ、生活環境が整いつつあります。「ただ、交通手段がいまひとつ。地下鉄の駅までは遠く、一方で町内が9丁目まであって広いので、バスが町内をまわってくれるのが望みです。これからも、融和を目指すまちづくり、ふれあいのまちとして交流の場を広めるコミュニティづくりに取り組んでいきたい」と語る会長さん。その熱い思いと意気込みに感動しました。

これからますます発展していくまち、荒井西。町内会の絆の輪もさらに広がっていくことでしょう。(H29.10取材)

(引地 記)



## 若林区まちづくり協議会

事務局

若林区役所まちづくり推進課内  
〒984-8601 若林区保寿院前丁3-1  
TEL 282-1111

### 会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝 又 久 雄  
西 條 芳 郎  
引 地 よ し い  
志 子 田 喜 恵 子  
清 水 公 七

### 編集後記

地下鉄東西線の開通を機に、「地下鉄東西線開業で魅力再発見」と銘打ち、地下鉄駅界隈の歴史や魅力、開通後の街の変わり様を取り上げ、連載してきました。本号では、その第3弾として「六丁の目駅界隈」を紹介いたします。また、若林区中央市民センター別棟の建替えに伴い、多くの子育て家庭に待ち望まれた「のびすく」が平成29年10月に開設されましたが、その事業内容や魅力などについて特集しました。

(まちづくり協議会事務局 大庭 記)

## 会報の愛称 「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

# 特集 「のびすく若林」がオープンしました!

昨年10月、若林区中央市民センター別棟(区役所隣り)2階に「のびすく若林」が開設されました。どのような施設なのか、その魅力などについて伊藤任佐子館長にお聞きしました。

**問** 昨年の10月1日、待望の「のびすく若林」が開設されました。子育て家庭や地域の方々の反響はいかがでしたか。

**館長** 仙台市5区最後の「のびすく」でしたから、みなさんぜひふん待ってくださったようです。開館のずいぶん前から「楽しみにしています!」「いつ開館ですか?」という声が聞こえてきていました。10月1日の開館日には200人を超える来館者があり、日曜日ということもあってお父さんの姿もたくさんみられました。



「のびすく若林」伊藤 任佐子館長

**問** 「のびすく」の設置目的、事業内容と利用方法等について教えてください。

**館長** 「のびすく」は、誰でも自由に遊びに来ることができる「ひろば」と、理由を問わない一時預かり、そして子育て関連の情報提供を行っています。「ひろば」に遊びに来ることができるのは未就学児で、必ず保護者と一緒の利用になります。(小学生は乳幼児の兄弟がいる場合、一緒に入館することが可能です。)

一時預かりは9時から16時30分の時間内であれば最大7時間30分お子さんをお預かりします。対象年齢は6か月から未就学児までです。上のお子さんの幼稚園や学校行事に参加するのに下の子を預けに来る方や、病院、介護、美容院、仕事など、預ける理由様々です。

情報提供は毎月発行する通信「こめコミ」やホームページ、また館内には情報コーナーが設置されていますし、子育て情報に詳しいスタッフから直接聞くこともできます。

**問** 5区の「のびすく」の中で、「のびすく若林」ならではの特色は何でしょうか。

**館長** 「のびすく若林」には、週3日、「ひろば」にプレーリーダーがいます。子どもと保護者の遊びを見守り、自由な発想で遊ぶことができるよう時には声かけをします。子どもとどう関わっていいのかわからないという保護者が、一緒に遊ぶことでいつの間にか子どもと関わるができるよう、伴走しています。また、月1回、すぐそばにある「ふるさとひろば」へお散歩に行き、外遊びの楽しさも伝えています。

**問** 子育て家庭や子どもたちにとって魅力ある場所となるよう、工夫していることはありますか。

**館長** 子どもたちが楽しく遊ぶことができる環境づくりも大切にしていますが、それ以上に母さんやお父さんの居心地のいい居場所づくりに力を入れています。実家に帰ってきたように感じてもらえれば嬉しいです。子育ての困りごとが気軽に相談できたり、気持ちのよさも受け止めてもらえたり、ホッとできる場所になればいいなと思っています。

いろいろなイベントを開催しているのも、「ひろば」に来るきっかけづくりになればと考えてのことです。ベビーマッサージやサロン、お話し会、手作りワークショップなど、ただ楽しいだけのイベントではなく、参加者同士がつながれるよう、のびすくにまた遊びに来ようと思ってもらえるような工夫をしています。



▲新米パパ向け講座

**問** 最後に、これから特に力を入れていきたいことや、アピールしたいことについて教えてください。

**館長** 若林に住んでいても、なかなか「のびすく」までは足を運べないという地域があります。震災後、「冒険あそび場ネットワーク」と一緒に上荒井地区で「ちびひろ」というママと子どもの遊び場づくりを行ってきました。今後、「のびすく若林」を拠点に、地域の中に遊び場を広げていきたいと考えています。

また、「のびすく若林」は、1階に南小泉児童館、社会福祉協議会、2階・3階には若林区中央市民センターが入る複合施設の中にあります。さらに、隣には区役所、すぐそばに文化センター、図書館もあり、それらの機関と今後はいろいろなコラボイベントなどもやっていきたいと思っています。



▲こどもひろばで遊ぶ様子

## 「のびすく若林」基本情報

- 対象** 乳幼児とその家族 ※未就学児まで
- 時間** 9:00~17:00 (一時預かりは16:30まで)
- 料金** 無料(会員登録が必要です) 一時預かりは有料 (最初の1時間は600円、以後30分毎300円)

- 休館日** 月曜、祝日の翌日(土、日及び祝日は開館)、年末年始
- 所在地** 若林区保春院前丁3-1 若林区中央市民センター 別棟2階 ☎022-282-1516

## 平成29年度 「第29回若林区民ふるさとまつり」

主催 若林区まちづくり協議会

肌寒い曇り空でしたが、「第29回若林区民ふるさとまつり」は大勢のお客様にお越し頂き、例年以上に盛り上がりました。

今年は、若林区中央市民センター別棟建替え工事が終了したため、改めて各ブースの配置の見直し、搬出入方法及び時間の変更、安全対策等々、各機関の調整に大変な時間を要しましたが、お手伝い頂いた皆様のご協力のお蔭で無事に開催する事が出来ました。

毎年人気の「ザリガニ釣り」や「学校じまん」、ステージ発表。他方ではヘリコプター、パトカーの展示、消防はしご車や協力企業の高所作業車の搭乗体験。その他、力作揃いの「わたしの作品展」やPRキャラクター「わかちゃん」が活躍した「健康づくりフェスティバル」、掘り出し物がいっぱいのフリーマーケット等々、見て参加して大いに楽しんで頂けたと思います。そして、区内の小中学校をはじめ多数の子供たちの参加や協力を得られたのは、若林区の特徴であり、これからも大切にしていかなければならない財産です。「ふるさとまつり」も来年は30回を迎え大きな節目となります。長

い歴史を大切に、そして区民の皆様へ「ふるさと」を再認識して頂けるように取り組まなければと考えています。

最後に実行委員会を代表し、来場されたお客様、そして、関係された皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

ふるさとまつり実行委員長 佐藤 康浩



▲ザリガニ釣り



▲まつり会場(出店コーナー)

## わらアートとまち歩きで若林区の魅力を発信!

### ~わくわくドキドキ5感で楽しむ若林実行委員会~

3年目を迎えた「わらアート」と「まち歩き」。年を追うごとに、市民の皆さんへの認知度も高まってきました。ますますパワーアップしたイベントの様子をご紹介します。

2015年の地下鉄東西線開業イベントを企画・実施するために集まったメンバーが、「一度限りではもったいない」と志を大きく「わくわくドキドキ5感で楽しむ若林実行委員会」を立ち上げ、若林区の魅力を発信して触れて五感で楽しめる「わらアート」と「まち歩き」の2つを継続しています。

今回は「恐竜わらアート2017~食べちゃうぞ!若林~」のテーマにて、実行委員はじめ学生ボランティア団体「ReRoots」(リルーツ)の学生、そして一般公募によって集まった市民ボランティアの皆さんが、稲わらの回収やわら編み、制作に携わり、恐竜ティラノサウルス他5体を完成させました。会場となった「せんだい農業園芸センターみどりの杜」では、恐竜たちの向かい側に沖野小学校の児童の皆さんが作った案山子(あまこ)がずらりと並び、園内の花々も来場者の目を楽しませます。使用した稲わらは、東日本大震災の津波で被害を受けた後によみがえった田んぼで採れたもので、わらアートが「復興のシンボル」となるようにとの祈りを込めています。



▲ステゴサウルスの前で

一方、「ぶら〜り発見!わかばやしまち歩き」では、政宗公の生誕450年にちなみ4回コースを企画。対象エリアに生まれ育ったり何回も訪れたりして、知識を積み重ねてきた委員が、生活体験をもとにガイドを務めるのが特徴です。

今後の予定として3月には、「政宗公ゆかりの地、旅立神社から若林城コース」を開催。政宗公が参勤交代の無事を祈願したという旅立神社に立ち寄った後、若林城跡へと向かいます。

この1年間、実行委員が結束して取り組んできた「わらアート」と「まち歩き」。この場をお借りして、イベント開催や各種協賛にご協力くださった方々に感謝申し上げます。この2つのイベントが若林区の復興と未来に向けた大きな支えとなり、末永く続くことを願っております。

わくわくドキドキ5感で楽しむ若林実行委員会 実行委員長 佐々木 峯子



▲七郷堀沿いの築工場を親子で見学(親子で歩く河原町ご城下コース)

## 平成30年度 若林区まちづくり協議会の行事予定

※詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。

- 4・5月** 役員会・総会
- 7月 第1土曜日** 若林区合唱のつどい
- 8~11月** 若林区スポ・レク・フェスタ
- 10月 第3日曜日** 若林区民ふるさとまつり
- 3月** 「はいらいん若林」vol.22発行
- 7~翌3月** 「ラチオはいらいん若林」放送 76.2MHz ラジオ3にて毎週土曜日 午前10時から インターネットで放送を聴くこともできます(サイマルラジオまたはラジオ3ホームページ)。